

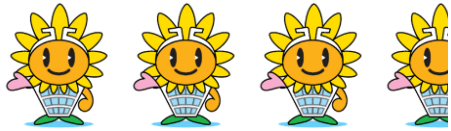



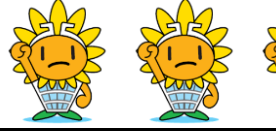






■使用評価マニュアル：北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト：CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要

建物名称	(仮称)株式会社アステム新北九州BEE	1.3	BEEランク	B+	★★★
------	---------------------	-----	--------	----	-----

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点※/満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.6 /5		ふつう 
2 地球温暖化対策の推進	3.9 /5		ふつう 
3 豊かな自然環境の確保	2.3 /5		がんばろう 
4 高齢社会への対応	3.0 /5		ふつう 
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	
		よい 4 点以上 	ふつう 3 点以上 
		がんばろう 3 点未満 	

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル:	CASBEE-建築(新築) 2016年版	使用CASBEE評価ソフト:	CASBEE-BD_NC_2016(v.4.0.2)
1 循環型社会への貢献		スコア平均 3.6	
リサイクルに関する配慮		長寿命化に関する配慮	
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 3.3	Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数	スコア 4
		Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 3.6
・OAフロアの採用によって部材の再利用可能性向上を図り、躯体と仕上材の分離を容易にすることで、解体時におけるリサイクルを促進させる対策がある。		・耐用年数の長い外壁・内装材を採用し、建物の維持管理に配慮している。 ・空間の形状・自由さが大きい計画としている。	
2 地球温暖化対策の推進		スコア平均 4.0	
省エネ・省資源に関する配慮		節水に関する配慮	
LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 3.9	LR2/ 1.1 節水	スコア 4
・燃焼機器は使用せず、大気汚染防止に配慮している。		・主要水栓は節水器具とし、節水便器を使用する等、水資源の保護に配慮している。	
3 豊かな自然環境の確保		スコア平均 2.3	
生態系保全に関する配慮		緑化に関する配慮	
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 1	Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア 3
		LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 3
4 高齢社会への対応		スコア平均 3.0	
バリアフリーに関する配慮		主な指標	
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 3	建物の外皮性能 (BPI評価) 非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級 0.71	
		建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価) 非住宅:BEI値、住宅: 0.61	
		外構緑化指数 0 %	
		建物緑化指数 0 %	

: 入力欄

: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

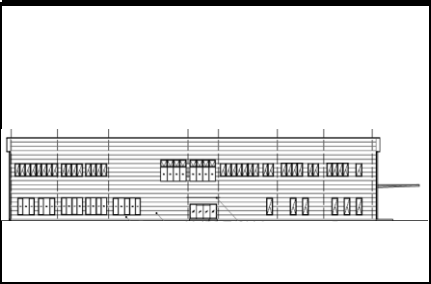
■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.02)

1-1 建物概要

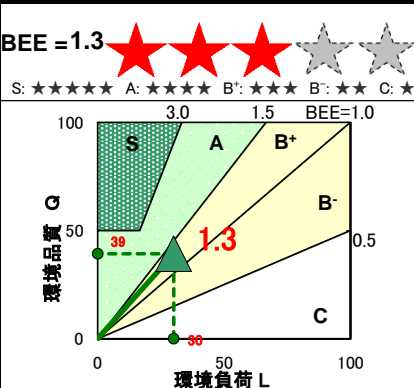
建物名称	(仮称)株式会社アステム新北九州営業部棟新築工事(仮称)株式会社フォレストサービス自動車整備工場棟新築工事(本棟)
建設地	福岡県北九州市長野津田土地区画整理事業施行地区内9街区
用途地域	準工業地域、法第22条区域
地域区分	6地域
建物用途	事務所、工場
竣工年	2026年3月 予定
敷地面積	11,251 m ²
建築面積	4,407 m ²
延床面積	9,365 m ²

階数	地上2F、地下0F
構造	S造
平均居住人員	600 人
年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
評価の段階	実施設計段階評価
評価の実施日	2024年11月25日
作成者	杉山 聡
確認日	2024年11月25日
確認者	杉山 聡

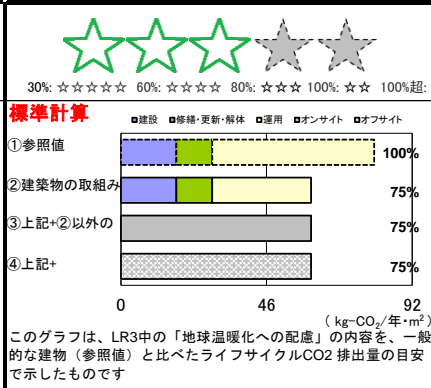
1-2 外観



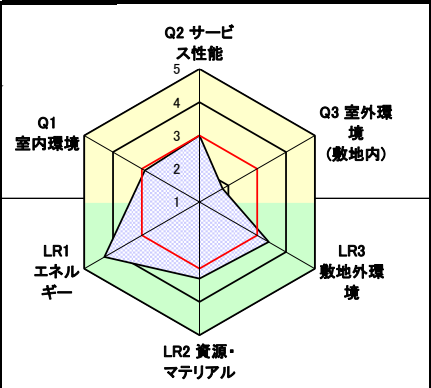
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



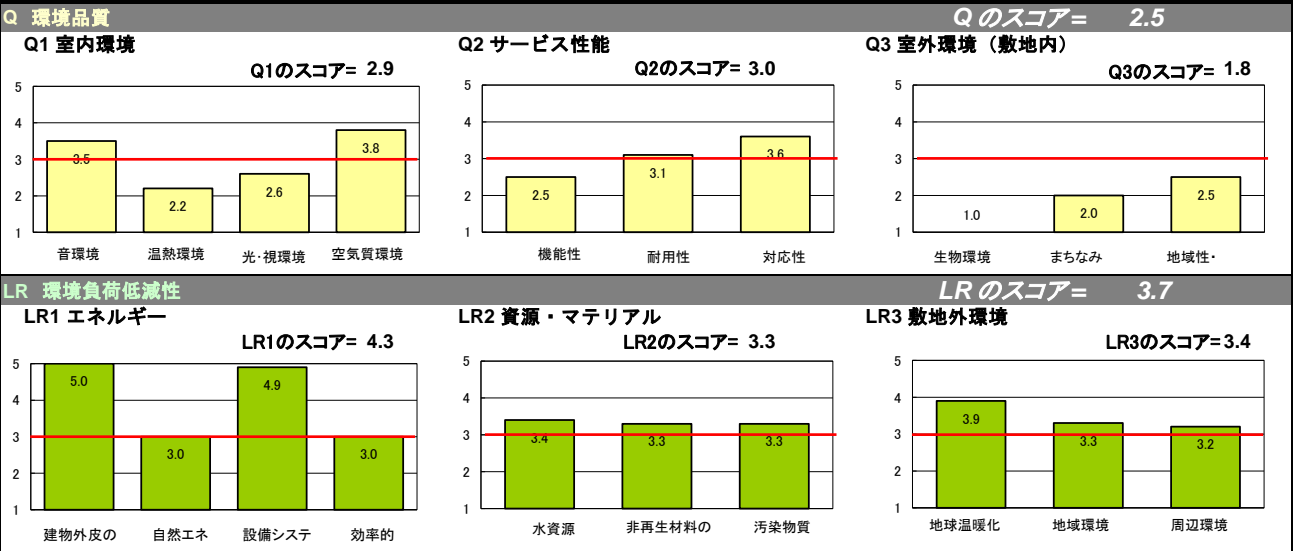
2-2 ライフサイクルCO₂温暖化影響チャート



2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項

総合	その他
・外皮性能を高め、高効率な設備機器の導入により環境負荷の低減を図るとともに、ライフサイクルCO ₂ 排出量の低減に努めている。	-
Q1 室内環境	Q3 室外環境 (敷地内)
・全面的にF★★★★の建築材料を採用し、空気質環境の向上に配慮している。	-
Q2 サービス性能	-
・リフレッシュスペースを十分に確保することにより、快適なオフィス空間の向上を図っている。	-
・階高や空間形状にゆとりを確保することで、建物の更新性に配慮している。	-
LR1 エネルギー	LR3 敷地外環境
・高効率な設備機器を採用し、エネルギーの効率的利用に配慮している。	・広告物照明はない。
LR2 資源・マテリアル	-
・O Aフロアの採用によって部材の再利用可能性向上を図り、躯体と仕上材の分離を容易にすることで、解体時におけるリサイクルを促進させる対策がある。	-

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版

(新築)株式会社アステム熊本入居者専用設備設置工事(新築)株式会社フナレストサービス員専用設備工事(新築)

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.02)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								2.5	
Q1 室内環境					0.34		-	2.9	
1 音環境				3.5	0.15	-	-	3.5	
1.1 室内騒音レベル		-		3.0	0.40	-	-		
1.2 遮音		-		3.8	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能		-		3.0	0.60	-	-		
2 界壁遮音性能		Dr=50		5.0	0.40	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-		-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-		-	-	-	-		
1.3 吸音		床、天井の二面に吸音材を使用		4.0	0.20	-	-		
2 温熱環境				2.2	0.35	-	-	2.2	
2.1 室温制御		-		3.5	0.50	-	-		
1 室温		-		3.0	0.38	-	-		
2 外皮性能		断熱性能の高い材料を採用		5.0	0.25	-	-		
3 ゾーン別制御性		-		3.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御		-		1.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式		-		1.0	0.30	-	-		
3 光・視環境				2.6	0.25	-	-	2.6	
3.1 昼光利用		-		1.8	0.30	-	-		
1 昼光率		-		1.0	0.60	-	-		
2 方位別開口		-		-	-	-	-		
3 昼光利用設備		-		3.0	0.40	-	-		
3.2 グレア対策		-		3.0	0.30	-	-		
1 昼光制御		-		3.0	1.00	-	-		
3.3 照度		-		3.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御		-		3.0	0.25	-	-		
4 空気質環境				3.8	0.25	-	-	3.8	
4.1 発生源対策		-		4.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質		床、壁、天井の他、天井裏も含めて、F☆☆☆☆の建築材料を使用		4.0	1.00	-	-		
4.2 換気		-		3.3	0.30	-	-		
1 換気量		換気量は30m3/h・人		4.0	0.33	-	-		
2 自然換気性能		-		3.0	0.33	-	-		
3 取り入れ外気への配慮		-		3.0	0.33	-	-		
4.3 運用管理		-		4.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視		-		3.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御		全館禁煙		5.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.0	
1 機能性				2.5	0.40	-	-	2.5	
1.1 機能性・使いやすさ		-		1.6	0.40	-	-		
1 広さ・収納性		-		1.0	0.33	-	-		
2 高度情報通信設備対応		-		1.0	0.33	-	-		
3 バリアフリー計画		-		3.0	0.33	-	-		
1.2 心理性・快適性		-		3.3	0.30	-	-		
1 広さ感・景観		天井高2.9m以上		5.0	0.33	3.0	-		
2 リフレッシュスペース		リフレッシュスペースは執務スペースの1%以上を確保		4.0	0.33	-	-		
3 内装計画		-		1.0	0.33	1.0	-		
1.3 維持管理		-		3.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		防汚性の高い建材を使用等		4.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		-		2.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.1	0.30	-	-	3.1	
2.1 耐震・免震・制震・制振		-		3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		-		3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能		-		3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数		-		4.0	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数		-		3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		押出成形セメント板:40年		5.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		耐用年数の長い内装仕上げ材を使用		5.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-		3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水(HIVP):B、排水(VP):B、冷媒(冷媒用銅管):C		5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔		-		3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性		-		2.2	0.20	-	-		
1 空調・換気設備		-		3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備		-		2.0	0.20	-	-		
3 電気設備		-		3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法		-		1.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備		-		2.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			3.6	0.30	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1 階高のゆとり		階高3.9m以上	5.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率<0.1	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり		-	3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性		-	3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性		-	3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性		-	3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性		-	3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性		-	3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保		-	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.36	-	-	1.8
1 生物環境の保全と創出		-	1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		-	2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		-	2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		-	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性							3.7
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制		断熱性能の高い躯体構成及び建築材を使用	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用		-	3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		効率のよい設備機器を導入	4.9	0.50	-	-	4.9
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング		-	3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制		-	3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング		-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制		-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		主要水栓等に加えて省水型機器を過半数以上に採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		-	3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		-	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.3	0.60	-	-	3.3
2.1 材料使用量の削減		-	2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		-	3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体と仕上材が容易に分別可能な構造、OAフロアの採用	5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		-	3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1 消火剤		-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		ODP=0、GWP<50の発泡系断熱材を採用	4.0	0.50	-	-	
3 冷媒		-	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出量低減	3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮			3.3	0.33	-	-	3.3
2.1 大気汚染防止		燃焼機器の設置無し	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		-	3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.2	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		-	3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		-	2.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		-	1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音		-	3.0	1.00	-	-	
2 振動		-	-	-	-	-	
3 悪臭		-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制		-	3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制		-	-	-	-	-	
3 日照障害の抑制		-	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		広告物照明を行っていない	5.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30	-	-	

CASBEE-建築(新築)2016年版

(仮称)株式会社アステム新北九州営業部棟新築工事(仮称)株式会社フォレストサービス自動車整備工場棟新築工事(本棟)

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	6.0		○	○	-	-	-	○	-	○	○	○	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	2.0		-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	1.0		-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	2.0		2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0		-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	6.0		-	2.0	-	-	-	-	-	2.0	2.0	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	8.0		1.0	-	2.0	3.0	-	-	-	2.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	1.0		-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC 0.7 窓の日射熱取得率(η) 0.6U値(W/m²K) 窓システム 4.2 屋根 0.4 外壁 0.9 床 -住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - η AC - η AH -

屋光率 -

自然換気有効開口面積率 -

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース - /人 病床 - /床 シングル - ツイン -

1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容量 - VA/m²

1.2.1 広さ感・景観

天井高 3 m

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース 1%以上 レストスペース 0.0%

2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数 - 年

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔 40 年

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔 20 年

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔 15 年

3.1.1 階高のゆとり

階高 ≥ 3.9 m

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率 <0.1

3.2 荷重のゆとり

床荷重 - N/m²

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数 0% 建物緑化指数 0%

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率 61% 水平投影面積率 0% 地表面対策面積率 0% 舗装面積率 60%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI_m 0.71 断熱等性能等級 対象外 相当

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年m² 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0%

通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%

3 設備システムの高効率化

BPI/BPI_m 非住宅 0.61 住宅 - 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率 0.0%

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品目 - エコマーク商品 岩綿吸音板 自治体指定の特定品目等 -

2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率 0.0%

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) <50

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比 43% 隣棟間隔指標Rw 3.92

地表面対策面積率 0.0% 屋根面対策面積率 #DIV/0! 外壁面対策面積率 #DIV/0!

見付面積Sb 649m² 卓越風向と直交する最大敷地幅Ws 102.553 m 基準高さHb 14.43 m緑地 m² 水面 m² 保水性対策面 m² 高反射対策面 m² 再帰性反射対策面 m²